

絵

伊丹公子

カット／石阪春生

波止場を描いたら

鷺になった

描き直したら

駱駝になった

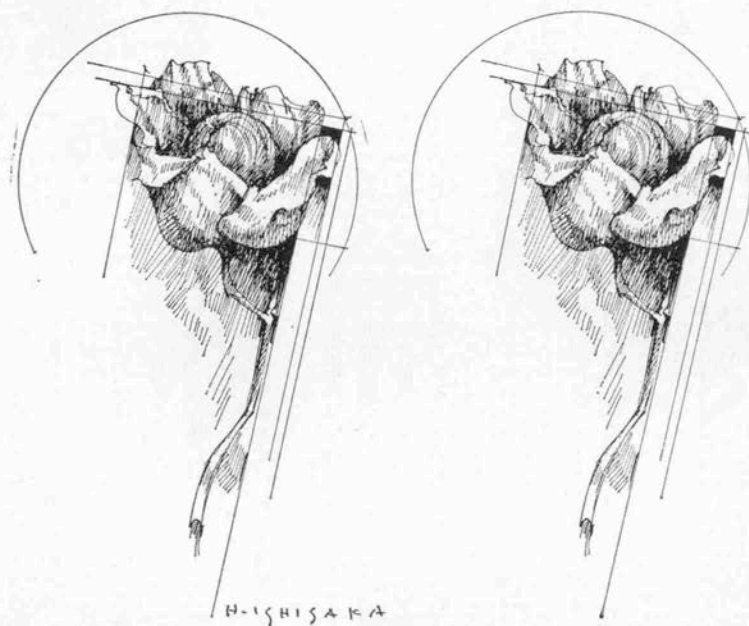
彼は

彷徨願望の画家なので

幾度描き直しても

動かない波止場は

描けないのだった



随想 二題



SIGHTSEEING KOBE 5.

開帝廟

米・観光・両隣

三宅 武

△作家△



五年前の資料だが、近畿農政局

統計事務所「作物調査」結果（昭

61）によると、神戸市の米の収穫

高は、一六、九〇〇tとある。こ

れは、市町単位で全県のトップで

ある。このことは、市の面積が広

いことにもよるが、私にとってち

よっとした驚きでもあった。二位

姫路市一四、四〇〇t。三位加西

市一三、三〇〇tと続く。トン数は

は年々減ってはいるが、順位は

このままだろう。

神戸生まれの神戸育ちと、自負

しているつもりが、神戸がこ

れほどの米どころであることに気

づかなかったことを恥じる。

フアッション都市KOBETとい

う感覚に慣れすぎていたのだ。東
は三宮周辺から西は元町西口あた
りまで、北は北野町から南はポ
トアイランドまでが、せいぜいフ
アッションの町らしい。あとはど
この都市にもある生産と生活ゾ
ンである。

目を転じ、離宮公園、六甲山、
有馬、農業公園、水族園などへ大
型連休に行くと、駐車場入りを待
つ車のナンバプレートの大半が
他都市のものであることに注目さ
せられる。神戸は大観光地になっ
たらしい。

毎日この町の都心部まで働きに
来て、〈それゆえにかもしれぬ〉
迂闊にもわが町の姿を見失ってい
たことを自覚する。

三十年昔、九州の人から神戸の
イメージについて、ひどいことを
言われた。マヤク・ミツユ・バイ
シュン・ボウリョクダン……もつ
と強烈なことも言われた。当時、

アクション映画の舞台は神戸と横
浜がよくつかわれた。先入観を持
たれたのだ。

さて、生粋の神戸人のつもりの
私が、米の収穫量におそまきなが
ら驚いたり、押しよせる観光客に
戸惑ったりするのは、しまらぬ話
だが、所詮「地元住民」は己が暮
しの場からしか町を見ていない。
案外、観光客のほうが、神戸の
「見どころ」を心得ていると思
う。神戸観光は、二泊が常識とき
く。

市民の見る神戸と観光客の見る
神戸は視点のちがいがあって面白
いと想像するが、「向こう三軒両
隣」にあたる芦屋、明石、三田、
三木、対岸の淡路に住んでいる人
々が見た神戸という町の印象は、
いったいどんな姿なのであろう。
耳をかたむけることで、行政も民
間も大きな情報を得るかも知れな
い。もう、アクション映画の舞台
ではないはずだ。



観光都市神戸・卒業旅行では人気No.1だ。

芭蕉布との出会い

深澤 信一

△東京海上勤務△



「復員」、ずいぶん古い言葉。きつと、いまは、死語かな。三十年余の間、離れていた神戸に帰ってきた。おそらく、後半の生涯をコウベで暮らすことになるだろう。

学校を卒業して、パイロットへの夢断ちがたく、航空自衛隊の幹部候補生学校（奈良）に入った。操縦適性検査、航空身体検査はパスしたものの、いざ、実際の航空実習で見事イルミネート（失格）になってしまった。

それからというもの、主として人事・総務・広報畑を歩いた。防衛庁航空幕僚監部（六本木）、三沢、小牧、小松、芦屋、新田原、那覇の各基地。隊員募集の熊本地方連絡部、レーダーサイトの福江島（五島列島）などなど、十数回の転勤を重ねた。

両親や兄弟が神戸に居るため、神戸には時々帰省したが、帰ってきてみると、めざましい変化に驚くことばかりである。

退官の挨拶状を出すと、二通りの返事が返ってくる。「神戸はコワイところだそうですね、呉々もご用心を。」「神戸は自然に恵



まれ、人柄も良い土地ですから、大いに楽しい後半生をお送り下さい。」といったもの。

「各地を廻って、どこが一番良かったでしょうか。」よく聞かれる質問だが、「どこもそれぞれ、特徴があつて良いところばかりでした。」と答えている。

勤務した中で、特に印象深いのは、「オキナワ」。故佐藤栄作総理は「沖縄が本土復帰しない限り、戦後は終わらない。」と断言された。沖縄が無事、本土復帰して、自衛

隊が部隊を展開、航空自衛隊は米軍からアラート（緊急発進）任務を徐々に引継いでいったが、沖縄戦の後遺症が強烈であったためか、沖縄での反自衛隊感情は、すさまじいものがあつた。そのような環境の中で、音楽は、思想を超越したものであつた。

平成3年5月澤深信一二佐送別パーティにて。
シャンソン歌手奥田真祐美さん、栗崎博光さんも駆けつけた。

沖縄の作曲家、普久原恒勇氏と親しくさせていただいた。氏の「芭蕉布」はNHKの名曲アルバムにとりあげられ、全国放送されたが、いつの日か、誰もが口ずさめるものにして世に出したいと十余年あためてきた。

定年を機に、自主製作、CDにして東芝EMIで作ってもらった。歌い手は、大阪出身のシャンソン歌手「奥田真祐美」さん。カラオケもつけた。「百聞は一聴にしかず」これが「復員」のメッセージである。

あたかひメロディの「芭蕉布」CDは大奮レコード（本社・神戸元町1丁目）及び六甲道・住吉・芦屋・ラポルテ・名谷・西神・岡山・倉吉・米子・松江・小浜の各店にあります。
お問合わせは、本店078（331）2680まで。



地域文化論

△その145▽

パリの新時代をのぞく

——オルセー美術館の

新しい姿を見て——

嶋田 勝次

△神戸大学建築学科教授▽

先年チャットとのぞいたパリは、フランス大革命二百年の記念に向けて大改造中であつた。

それは十大プロジェクトと称して、いくつもの計画がアビールされていった。シャンゼリゼ大通りから真直ぐ西へ伸びるセーヌ川下流の向う側に造成されて来た副都心のデファンス地区に、グラランド・

アルシユ（新凱旋門）と呼ばれる大構造物も生まれているし、またルーブル美術館も、これまでのルーブル宮の西南部だけの利用から全面的利用に展開して、広く大きく充実して来ている。それらのいくつもの提案の完成した姿を見ることが大きな楽しみだった。

その中のひとつにこの新しい近代美術の殿堂となった当オルセー

美術館がある。

ルーブル美術館の南西部、セーヌ川をはさんだ対岸に立つこの建築は、もともと一九〇〇年の万国博（グランパレ・プチパレが建設されて開催）に合わせて博覧会場と直結させようというねらいがあつたらしい。

この大空間建築は駅舎として建築されていたようだが、この中に近代美術作品がたくみに分類されて見せてくれる。

見学の第一部として、地上階の奥はオペラ座の紹介に当てられていて、床は強化ガラスが敷かれてその下に航空写真が貼られていて上空から手が届くような風景が見られるし、またその横にはオペラ座の内部まで立体的に表現している。せてくれている。

この階の北側と南側は十九世紀中葉の、アングル・ドラクロア・ドーミエ・ミレー・クールベ・モローなどが見られる。

その上の中階北中側には、ロダンの彫刻が置かれているし、中階南中

側には、ブルデル・マイヨールなどの巨匠の作品が身近かに置かれている。

この階ではその他広くアールヌーボーからグラスゴー派・シカゴ派など、近代に花咲く過程を見ることが出来る。

そして最上階は見学第二部として、印象派・新印象派等々の画家の作品があふれていて、とにかく圧巻である。

マネ・モネ・ルノアール・ロートレック・ゴッホ・ゴーガン・ドガ等々が次々と現われて来る。

ゆっくりと鑑賞したい気分もあるのだが、この都市の環境にゆっくり触れたいと思いかけると、次々とちがう欲求が、頭をもたげて来る。

それに今日はまだこれから船上でフランス料理を賞味しようという楽しい予定まであったものだから、パリの魅力に親しむ時間がまだまだほしいと思えて来る。

今回はルーブル・オルセー・ポンピドゥウをのぞいたので、今回のパリの美術館見学はこれ位にして、街の様子にもいろいろ触れたいと思った。だが、手近かなところからと思うと、シャンゼリゼから、サントール・レアルとなってしまう。

また時間との競争なのだが、パリ大学都市か、ブローニュの森か、ベルサイユ宮殿に遠征するか、蚤の市を冷やかすか、と思うだけでも、体力との賭けになってしまふ。次回があると勝手に納得。

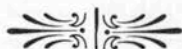


オルセー美術館

Juchheims
Die große und kleine Feinschmecker
 Alle Feinschmecker aus Köln
 seit 1881

ユーハイム創業70周年記念企画

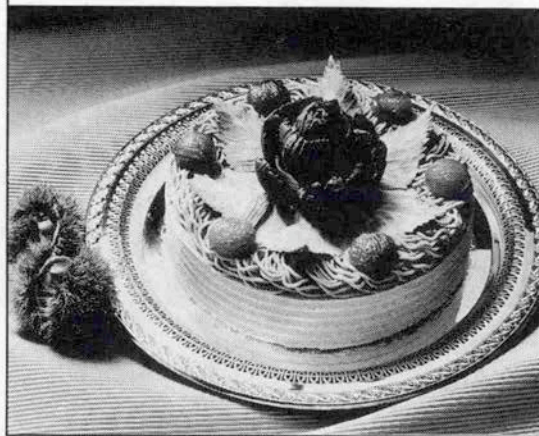
スペシャル・アニバーサリー・ケーキ



特別の日のお祝いのために、季節の恵みを吟味し
 心を込めてつくり上げました。マンスリーごとに
 オリジナルデザインでお届けいたします。

予約限定商品ですので、
 一週間前までに御予約下さい。
 御希望日に御希望場所へお届け致します。

価格 20,000円 (税別)



ママといっしょに



赤ちゃん：河本 珠奈ちゃん (平成3年4月1日生)

マ マ：明美さん

「珠奈はお父さんお母さんの宝物です。
 元気にすくすく育つ事を願っています。」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
 ☎575-1024 (病室 ☎576-9639)
 市バス上沢4 停南スグ

随想

旅のかたち

〈19〉

二本の木

安水稔和

絵／中西 勝

秋山郷上野原の宿「のよさの里」の朝。目覚めると、雪の林のむこうに淡い紅色の鳥甲山が浮きあがる。寝たまま寝床のなかから窓いっぱい雪の山肌を眺めていると、薄紅色がみるみる濃くなって、やがて白く輝きだす。

バス停まで宿の車で早目に送ってもらって、バスが来るまでの小一時間、あたりを歩きまわる。道ばたに顔をのぞかせているフキノトウを摘んでまわる。雪解けの水音、しきり。谷むこうに屹立する鳥甲山の、雪と雪のとけた地肌とが作る絵模様に目を奪われる。ひっきりなしにきこえる鳥の声。ひとときわ近くきこえる鳥の姿を探すと、林のなかのおもったよりも遠くの枝にいた。ひとしきり鳴き、鳴きおわって枝間をせわしく動きまわり、またひとしきり鳴く。

林のかげからバスが突然あらわれる。あわててバス停へ走ってもどって乗りこむと、バスは身ぶるいして走り出す。このバスで谷の一番奥の切明まで行って、そこで折り返して、今日は谷を出る。この谷もこれでもう三度目。バスの窓からのおおかたのこと覚えてしまっている。あ、あの木、あ、あの家、あ、あの曲り角、なんていうふうに所々に目じるし作って。

切明から和山、上野原と下ってきて、次は座敷

という部落がある。谷あいには珍しくわずかながら平地があり、家があり田畑がある。一昨年の夏はじめてこの谷にやってきて、座敷の川ぞいの宿に泊ったとき、平地のまんなかに並んで立つ二本の大きな木を見つけて、目をみはった。亭々とそびえる二本の木は、山風に枝葉をそよがせて立っていた。ところが昨年春に来たとき、雪のなかに立っているのはあの二本の木にちがいないのだが、なんだか様子がちがう。一本はあいかわらず山風に枝葉をそよがせているが、もう一本が棒のように突っ立っている。葉をすべて落して枝もあらわに立っているのだ。常緑樹と落葉樹、わかつてしまえばそれだけのことだが、それでもなんだか不思議、ずっと頭から離れなかった。もうそろそろ見えるぞとバスの窓から目をこらしていると、雪の台地に二本の木、寄りそって夢のように立っていた。

森宮野原駅に着いて、駅前の飯屋で昼食をとる。飯山線で長野にもどり、篠ノ井線快速に乗りかえて。さて、もう一泊しようか。では、どこで降りようか。降りてどこへ行こうか。

同じ場所へ何度も出かける癖があると前回書いた。加えてもうひとつ旅の癖を書く。旅の途中



で、オマケとっていいのか、フロクとっていいのか、予定にはなかった場所をちょっと付け足すという癖が私にはある。オマケのポケットとでもいおうか。そうなるのは、私の旅の仕方のせいだろう。気ままな旅が好きで、全行程のスケジュールなどあらかじめ組んだことがない。泊った宿から次の宿へ電話して泊り歩く。帰るとなってもうひとつ余分のオマケをつい付け足す。

はじめて秋山郷へ来たときは、出発の朝に野沢グランドホテルに電話して出かけた。次の日に谷に入った。帰途、昼すぎに谷を出て津南の町から電話して、長野から電車とバスを乗りついで夕暮の山田温泉風景館に入った。二度目のときは、出発前夜に谷の口にある逆巻の宿へ電話して出かけた。帰途、長野へ戻らずバスで越後湯沢へ出た。塩沢へ行って「秋山記行」の著者鈴木牧之の墓所に詣で、鈴木牧之記念館を訪ねたが、これはあらかじめ旅のメニューに入れていたこと、次の日、上越新幹線で東京に出て東京ステーションホテルに泊ったのは、仕事がらみのこととはいえ、オマケといえる。三度目の今回も出発前夜に逆巻の宿に電話して出かけてきたのだが。

なんとなく松本で下車。駅前の案内所でたずねて、タクシーで美が原温泉和泉屋に入る。土蔵づくりの宿。雨。次の日も雨。松本城のそばにある日本民俗資料館松本市立博物館を訪れる。常設展示のひとつ、世界の古時計・本田コレクションのなんとさまざまな時計群、なんとさまざまな時の姿。オマケのポケットの中身はなかなかのもの。

随想□私と神戸

画集が出来て

元永 定正 △画家▽

元永定正作品集をつくらうか、という話があったのは、一九八八年八月、新潟の創庫美術館「点」での私の個展のときであった。

それから一九九一年七月十三日、大阪丸ビルのマハラジャでの出版記念パーティまで、まる三年間の月日が流れていた。

これは一つは「ぐたいのころ」とタイトルされた私の文章、むかしかったエッセイなど含めて原稿用紙百枚程がなかなか出来なかったこともあったが、経歴や文献、其他の資料をそろえるのが大仕事であった。

そんなことは私にはとても出来る才能がないわけです。私の回りでは一番なにもかもわかってもらっている女房の方へしわよせが行ってしまったが彼女として作家だしあれこれと仕事がなかなかはかどらなかった。

この作品は何時かいたの？ タイトルは大きさはと聞かれても私にもすべての作品がわかるわけがなかった、あっちこっちの資料の山をかきわけ

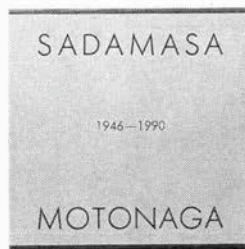
てやっと見つけたことも度々でもううんざりしたものだ。

当然のことながら新しい仕事や個展の〆切日がせまってくるしグループ展でヨーロッパ行きなんてことになる。「昔のことなんてもう知らん」そんなストレスだまりの時間が過ぎたのだった。

また出版の博進堂が新潟なので打合せの時間をとるのもむづかしく印刷の都合もあったのだろうか。十カ月あまりも連絡なしということもあった。

元永定正の小論を友人や先輩にたのんで結局二十五人にかいてもらったのだったが早く原稿をいただいた人達から「何やってんの、もうつぶれてしもうたんか」なんてよく云われたしその一人須田剋太さんにはこの画集をお見せすることも出来なくて亡くなってしまわれたのは残念のきわみであった。

何故とも一つ仕上げるにはいろいろな力が必要だ、今回もたくさんの皆様にお世話になった、それにしても資料を完璧に集めるなんて至難のこと



だと思ひ知らされた。

しかし作品のカラー写真は制作のたびに私自身で全部撮影しているし旧作の大きな絵は故・岩宮武二さんに全部撮していただいたのが役に立った、大変うれいことでした。

出来上った画集をめぐっているとその時々々の作品についての想い出が浮びます。

具象の頃の「能人形」は絵のぐも人から使い古しをもらったものばかり、伊賀上野の街をかいいた「踏切と柳のある風景」は今ではすっかり変わってしまったが踏切のある場所だけは変りがない。裸婦の絵は伊賀から始めて神戸に出て来た頃の作品である、それから私は突然抽象画を始めたのだったが、何もわからず全くの手さぐりで自分の世界

をさがしたのが初期の抽象画ということだ、それから絵のぐを流した作品は十年続いたし東京画廊やニューヨークのマース・ジャックソン画廊での個展、プレミオリソーネー国際展では受賞もした、そして本格的な形の時代は一九六六年ニューヨークの生活から始まった。

一九四〇年から一九九〇年までその頃その時の作品はキャンバスだけでは無かった、カーペインティングや壁画、椅子、タピストリーや陶板など多くの仕事がこの画集に収録された。

出版記念のパーティは世話人会で今までの形式を破って面白い場所がないものかと考えた上、デイスコのマハラジャに決定した、当日は四百人程の友人知人が参集下さって大変賑やかなパーティになったのは有難いことでした。

しかし何といっても画集は過去の集積。

それはそれ次の仕事を考えよう、アトリエには新しいキャンバスが私を待っているのだ。

■元永定正作品集

筆者の一九四六年から一九九〇年までの作品が年代別にまとめられており、作風の変遷に興味をひかれる。

また、25人の美術関係者らによる元永定正論も筆者の魅力をおますところなく紹介している。

(博進堂刊 二五〇〇円)



上/いろはの2 1978 下/出版記念パーティーにて



□トランペット片手にブラジル一人歩き△34▽
Miamiから
New Orleansへの旅

絵と文 右近 雅夫 △在ブラジル・サンパウロ▽

昨年暮れ、僕は一生のうちに是非一度は行きたいと思って居た New Orleans に家内のマリアと息子の三人で旅行したが、其の途上 Miami に立ち寄った。空港で入国検査を終えると未だ五時半だと言うのに、もう薄す暗い。サマータイムのサンパウロからやって来たので、時差と、こちらは冬に成りかけて居ると言う事を忘れて居たのだ。

サミー・デーヴィス・ジュニアみたいな顔をしたポーターに「Alamo のレンタ・カーや」と言うのと、空港の表で向うから来たマイクロ・バスに僕等のトランクをほうり込んだ。僕等三人と後からやって来た新婚の夫婦を乗せたバスは、夕方のラッシュの中を途中から横道へ入って、やっとレンタカーの事務所に着いた。スペイン語を話す女の子が応待して呉れたので、手続きはスムーズに行ったが、外へ出て車を渡されるともうとくに日が暮れて居た。「初めて外国で車を運転するちゅうのに夜に成ってしても、ほんまにえらいこっちゃ」と思ったけれど後の祭りである。予約し

ていた Miami Beach のホテル迄行かねばならない。旅に出る前買ったマイアミの市街地図で、

「国際空港からマイアミ・ビーチ迄は高速道路を真っ直ぐ行けば至極簡単や」と思ってたが、バスが途中、ぐるぐる迂回したので勝手が狂ってしまった。丁度其の時、やはりレンタカーを借りて外へ出ようとして居たブラジル人の夫婦を見つけた家内が大声を張り上げて呼び止めた。同じ飛行機でサンパウロから一緒やったのである。「何や、そんなら其処迄わしの後をついて来たらええ……」と親切に高速の入口迄送って呉れた老夫婦に手を振って別れ、地図を片手に無事ホテル迄辿り着く事が出来た。

行き当りばったりで呑気な僕等は其の翌日がアメリカの休日だと言う事を忘れて居た。運良く開いて居たユダヤ人の店で日本製ビデオ・カメラを買い旅行中写して歩いた。「お昼に寿司が食べたい」とマリアが言ったのでホテルの電話帳で調べておいたスシ・ハウスを探して歩いたが生憎全部閉まって居る。すぐく腹が減って来たので Collins Ave. の大やぐらの駐車場に車を止め、ガードマンに尋ねると「レストランなら其のエレベーターに乗って」と言うボタンを押せば

よい／＼と教えて呉れた。エレベーターを出ると、成る程其処に立派なレストランが有った。きれいにデコレーションで飾られて居るがお客がまだ一人も入って居ないので「如何しようか?」と迷って居ると支配人らしき男が出て来て、予約して居るか?と尋ねた。「No」と答えて、「僕等はツーリストで初めて此処へ来たんや………」と説明すると、「予約して無くてでもOK!………」と言ってテーブルに案内された。

「今日はThanksgiving Day (感謝祭) で本当なら無代でお客様にサーヴィスし度いのですが、実費七ドルだけ頂いてフル・コースのお食事を楽しんで頂きます………」と言われ、やっと今日はサンクスグイヴィングのお祭りの日だったと気が付いた。暫らくすると次から次へとお客が入って来た。いずれも七十から八十歳位の老人ばかりで、特に婦人は帽子をかぶり正装に着飾って居る。何故あんなに安くてしかも老人ばかりが居たのだろ



入江に面したマイアミの Bayside Shopping Center

う?と不思議に思い、ブラジルに帰ってからマイアミの事情に詳しいアミゴのフェルナンドに尋ねると、「何だ、お前は停年年金生活者の昼食パーティに行ったのだよ、頭の毛が白いからきつと間違えられたんや」と言ってゲラゲラ笑った。

最近ブラジルではマイアミへ旅行するのが一寸したブームに成って居る。インフレのブラジル国内よりホテル代等も安くつくし、ダウンタウンの一角にはブラジルの旗を掲げて英語が出来なくてもポルトガル語で買物が出来るブラジル人相手の店が沢山有るからだ。ところがブラジル人観光客を狙う泥棒や強盗が増え、最近治安が悪く成ったと言う話を良く聞かされて居た。僕等のホテルの寝室のトイレの入口には等身大の鏡が付いて居たが、夜明け方トイレに起きた家内のマリアが暗闇の中で鏡に映った自分の影を泥棒と間違え大声を張り上げると言うハッピーニングがあった。

港の側に有る Bayside Shopping は入江に沿って建てられたショッピング・センターだが、僕等が行ったのは丁度夕暮れ時で、夕やけをバックにイルミネーションが水に映りロマンチックな風景だった。ショッピングのヨットハーバーに横着けた漁船からおろした取りたての魚を売って居るのも面白い。僕等は SEAFOOD 専門のレストラン、「Dockside Terrace」で夕食をとり帰途についた。下町とマイアミ・ビーチの間は二車線のハイウェイが海の上を走って居るが鉄柵も何も無く、其の真横に大洋、航路の客船が停泊して居るが、よくあれで車が海に落ちないものだ?と心配させられる。明日はいよいよアトランタ経由のデルタ・エア・ラインでニュー・オルリンズに向けて出発だ。

毎年九月初旬頃になると思い出すのは、サハリン沖で撃墜された大韓航空機の事件である。当時、私はこのニュースを、スコットランドのツイードの近くの小さな村で、宿屋の女将から聞いた。この宿屋の小さなロビーのTVに、突然日本語のアナウンサーの声で中継録画が映り、下段に英語の翻訳文が事件の詳細を語っていたのだ。思わず遠く異国の地に居る事を忘れる程であった。世界の出来事が即時に目に入る現在、茶の間で湾岸戦争やソ連のめまぐるしい政変を目の当りにする事が出来るのは

にうまく行く人生なんて、考えただけでも面白くない。又一人旅ほど素晴らしいものはない。他人に気を遣う事もなければ、失敗もよし、又責任の転嫁もない。自問自答、只自己の判断のみで行動する。但し間違っていない。正しくても他人の評価はない。

さてロンドンでレンタカーを借りる。この季節は英国の気候も最高である。田舎を駆け巡るには屋根のないスポーツカーだと最高ののだが、無いと云う。経済的なヒント一、三〇〇が得だと係員は云う。道路事情は非常に

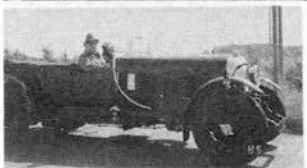
□エッセイ／シャーロックホームズの冒険（第三話）

エディンバラの夜は更けて

前田 和穂（建築家・シャーロックホームズ時代代表取締役）



キルト姿の男性（右）と筆者



（写真上から）筆者が泊った宿屋、道を尋ねられた老夫婦、チャーリー王朝風の建物。

・シャーロックホームズジヤパン樹は、英国チャーリー王朝時代、16世紀末から約一世紀に流行した重厚な木造建築を手掛けています。
・シャーロックホームズジヤパン樹／神戸市垂水区長谷町字猿倉276-4 電話（〇七八）七〇七一八六五〇

もはや世界の意識が一つに纏まりつつあると云うことを物語っている。

八年前、私は夏の休暇で英国の田舎を駆け巡る計画をたてた。ドゥヴァーをホーヴァークラフトで渡り、ロンドンでレンタカーを借り、行き当りばったりの旅行である。只一つ我がシャーロックホームズ社のメッカであるストラッドフォード、アボン、エイボンに詣でる以外は全く懐具合と風まかせ。この様な旅行では、大事なものを見落すこともあれば、誰にも経験出来ないものを得る事もある。人生だってその様なものだと思う。計画通り

優れ、英国の特色だが、交差点は必ずサークルになっていて見通しが良く、左側のみ注意して走れば容易に進行出来る。道路地図は簡明に記載されていて（M・A・Bに分類され、Mは高速道路、Aは国道、Bは県市道と云う具合で）実に分り易い。日本の道路地図は、親切すぎて複雑だ。ストラッドフォード、アボン、エイボンはロンドン西よりM6に乗ってA385とクロスするインターで降り、B106に云々と書いてある通りに注意して走れば所要時間約二時間と計算出来る。所が計算外は屢々のこと。一人旅は時には不便なもので、Mを出てAに入り

サークル交差点で回っている間にBの番号を忘れてしまった。エイままと横文字を読んだつもりも運転中は満足に理解出来ない間にとんでもない方向に車が走り込んで了う。遂に道に迷う。暫く田園風景を楽しみながら走ると先方から古くさい自動車ヨタヨタと走って来るのが見える。一九二〇年代の古典車で、それに似合った上品な老夫婦が日傘をさして私の車の前で停車した。思わずカメラを構えると先方から声がかかった。老紳士が帽子をとり、『道に迷ったのだから御教示願ひ度い』とのたまたま。『当方も迷っております』と大声で答える。双方大笑して走り去る。暫くすると森に囲まれた美しい部落に入る。どの家も同じ石で造られた壁、同じ色の屋根、同じ様な窓枠のペンキ。思わず車を止めて辺りを散策すると丘の上に道が続いており、一際大きな門に『オーブンハウス』と書いてある。車を乗り入れると、何と荘園の領主の館である。蔦に覆われた石灰石の堂々たる館で、一六九七年建造と彫ってある。庭に回ると約一〇〇坪程度の英国風の庭園を三々五々老夫婦が散策している。裏手に温室があり、数組の老夫婦が若いゴム長の紳士をとり囲み話を聴いている。どうやら庭造りの講義をしているらしい。異国の人間が闊入したので一様に驚いて私の顔を見て講義が寸断するや、上品な老夫婦がお茶を入れて、私のつっ立っている所まで運んできて椅子をすずめて下さった。顔立ちで、ゴム長靴をはいているのは、王子様、お茶を入れて下さったのは領主の御母堂と推察致し、誠に以て恐れ多い事と恐縮する。帰り際に御兩人が書かれた『英国女性の庭園』(The English woman's Garden Atvide Lees-Milne & Rosemary Verey)なる美麗本をサイン入りで購入することとなる。

思わぬ所へ迷い込んだお陰で、現代英国の貴族の生活を垣間見ることが出来た訳である。

さて、目指すストラッドフォード、アボン、エイボンは、よく御存知の読者も多いと思うので割愛するとして、(然し年々観光客も増加しているのか、以前より活気に満ちているのに驚いた次第である。)車はスコットランドのエディンバラに向う。イングランドとスコットランドの国境附近は、行き交う車も殆どない山道で、広大な山地に突如、ゴルフ場の様に良く整備された牧場や遠く

に美しい牧場主の家が散見される。牧場毎の境界は石で積上げられ近世に起った『ヨーマンリー』(註・農民の囲い込み運動で貧農は農地を取上げられた事件)の名残りを留めているのであろうか。日暮れが近づきツイード川と書かれた標識に沿って上ると、小ぢんまりと可愛らしい宿屋が目に入った。今夜はここだと即座に決める。手入れの行届いた室内から愛想の良い若い女将が出て来て、冒頭に書いた大韓航空機の一を話を話してくれたのであった。そして『貴方はタトウーを見に行くのか』と聞くので一体それは何なのかと問うと、明日、年一回のエディンバラのお祭りで、お城の中で、タータンチェックのキルト(スコットランドの民俗衣装)を着用した兵隊や楽隊の大ベージュエントがあり、貴方はそれを見る事が出来ればラッキーな事だと申すのである。チケットは駅の売店でも買えるので是非行けとの事である。二十年程昔、私はエディンバラまで何と云う事もなく訪れた事があるが、記念にキルトを買って帰り、時折、神戸外人クラブでのスコットランド協会のパーティに着用して虫干ししている有様だ。キルトは男の民俗衣装としては世界一美しいと信じている私であるから、二つ返事で行く事とする。

エディンバラ市内に入ると、道の両側は旗で飾られ、人々は皆お祭り気分であっている。切符はすぐ手に入ったが、何と公演は真夜中の十二時と午前二時の二回行われると云う。夜ともなれば当地はもう寒い。城門の近くのバブで、暖でも探ろうと重い扉を押すと中は満席で、すでにきこし召した酔客が、異形の私を招き入れ、ビールや、ウィスキーを振舞ってくれるのである。Rの発音にきつい訛りのある男が私に何事か尋ねるがさっぱり判らない。『この男はシェットランドから来た人だから、東洋人のお前さんは判らんだろう。我々スコティッシュでさえ判らんのだから』と皆大いに笑う。気の好い連中と共に城門の中へ入り指定席に坐る。

雄壮なベージュエントはバグパイプ、鼓笛の各隊が次から次へと現われては消え、人々の歓声は止む事がなかった。『エディンバラの夜は更けて』。正しく私には思いつけない旅の思い出の一頁であった。

経済ポケット ジャーナル



★デザイン・コンベンション'91開催される

「デザインは活路を拓く」国際性豊かな兵庫をめざして」をテーマに国際デザイン・コンベンション（主催：国際デザイン交流協会）が神戸・ポートアイランドの神戸商工会議所会館で開かれた。

神戸芸術工科大学の田中教授の基調講演の後、国際的に活躍しているデザイナーによるデザイン・トークを講演形式で行ない、デザインを切り口とした熱い討論が繰り広げられた。



基調講演をする
田中 教授

★新社名はUCC上島珈琲株式会社

コーヒーの製造・販売を中心とする食品メーカー上島珈琲（上島達司社長、本

社・神戸）は、社名をUCC上島珈琲株式会社に変更した。（登記はユーシーシー上島珈琲株式会社）

今回の社名変更は商号（上島珈琲株式会社）と商標（UCC）の一体化を図り、グローバルでイノベーションな総合食品メーカーを目指す企業づくりとイメ

ジの確立を図るのが狙い。★竹馬産業が社名変更並びにCI導入

繊維商社の竹馬産業（宇野修社長、本社・神戸）は

昨日1日から社名を「株式会社チクマ」に変更、同時に新グループアイデンティティ（GI）を導入した。

新CIのコンセプトは「リゾーム（仏語で根茎）・

マインド」。繊維からファッ

ションへと事業を拡大している同グループのイメージを様々な場所

で芽を出して伸びていくリゾームの様にたとえて



★阪神銀行の取締役会長に後藤俊彦氏、取締役頭取に西脇良一氏就任

株式会社阪神銀行（資本金98億99百万円）の取締役会長に後藤俊彦氏、取締役頭取に西脇良一氏がこのほど就任した。

後藤俊彦氏（65）は、東京大学経済学部卒業後、昭和25年神戸銀行入行、太陽神戸銀行取締役などを歴任、今回の就任となった。

また西脇良一氏（58）は慶応義塾大学法学部卒業後、昭和35年神戸銀行入行、太陽神戸三井銀行取締役を

★KOBEOフィスレディ★



清水洋美さん（24）
△山崎真珠勤務▽

ポートアイランドにある山崎真珠本社の勤める清水洋美さん。取引先の多い同社において、営業事務としての彼女の役割は重要だ。ストレスは週一回のテニスで発散。趣味は和菓子作り。「意外と簡単なんです」と笑う彼女は、きらきらと輝く緑が本当によく似合う。

牡牛座のO型、神戸市在住。

経て、阪神銀行顧問から取締役頭取に就任した。



頭取の
西脇 良一氏



会長の
後藤 俊彦氏

★第6回インターナショナル・ギフト・ショー西日本秋'91

国内で最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市「インターナショナル・ギフト・ショー西日本秋'91」が9月18・19・20日の3日間、ポートアイランドの神戸国際展示場で開催される。今回の統一テーマは「愛・夢・希望のギフト感性」。ギフト市場の新しい潮流と新商品情報を一挙に公開する。

